

## 【一】

次の文章を読み、後の問いに答えよ。

疑似科学であるかどうかを知る目安として、それをどんな人間が言っているかを見て判断する方法がある。私の判断基準を示しておこう。

世の中には、評論家や専門家の類が多く存在し、科学者も登場する。テレビを見ていても、事件があれば必ず専門家が顔を出し、当たり障りのないことを述べているのにお目にかかる。そんな当たり前のことをわざわざ専門家に勿体ぶって言わせるまでもないだろうと思うのだが、テレビ局は臆面もなく登場させている。だいたいがブナンな意見なのだが、ときに極端な意見のこともある。検証抜きで、簡単に断定してしまう場合である。特に、畑違いの分野に関しては全く素人同然なのに、あたかも何でも知っているかのように言い立て、疑似科学を振りまいている御仁がおられることに注意しよう。

一般に、科学者は疑り深いから直ちに結論を出すことを避ける。明らかな証拠がないと、さまざまな可能性を考えてしまい、歯切れが悪くなるのだ。真実に忠実な科学者であるほどその傾向が強い。だから、そのような科学者にはテレビ局から声がかからず、人々に知られることが少ない。

しかし、目立ちたがりやの科学者もいるし、自分こそは権威であると自認している科学者もいる。自分の知識をひけらかし、何にでも口を出したがる科学者である。これらの科学者に共通した態度は、知識に欠けている者を見下し、「こんなことも知らないのか」とソンダイに振る舞うことである。あるいは、自分の意見が最善であると強調して、他人の意見に耳を貸さない態度も共通している。独自の意見を持つのはよいが、唯我独尊になつては見苦しい。

科学とは、知れば知るほどわからないことが増えてくるものである。自分は何も知らなかったと思ひ知らされるのが科学者の日常と言える。つまり、科学者は研究を極めれば極めるほど謙虚になる。自分の無知さを知って謙虚にならざるを得ないのだ。その観点から言えば、知ったかぶりをする科学者にはもはや研究をストップしており、それまでに得た知識を誇っているに過ぎないと言うことができる。もはや過去の人であり、その知識は時代遅れになっている可能性が高いのだ。

そうすると、科学者は常に現役でなければ意味がないことになってしまう。事実そうなのだが、現在は研究をしていなくても、これまでの経験や培った勘があり、それを活かした意見は述べられる。その場合は、どれだけ研究の新しい展開を勉強しているかが鍵になる。一般に、よく勉強している科学者はやはり謙虚である。他人の仕事に学ぶ態度を持続しているからだ。それを考えれば、謙虚か謙虚でないか、これが科学者の見分け方の初歩である。

本来、政府の審議会や専門家会議には、そういう人物を求めるべきであろう。諮問される問題の多くは、現状を改善し、未来への見通しを問うもの

が多いから（医薬品や化学物質の安全基準の設定、ダムや原発建設のアセスメント、宇宙開発の展望や教育行政の転換など数限りなくある）、それなりの経験と見識を備えているとともに、科学の力を謙虚に考え続ける態度が不可欠なのである。しかし、そのような期待は裏切られるのが普通である。新しい展開について勉強をしていないため、まだ少しは勉強をしている役人の作文を追認するだけになっているからだ。科学者は御用学者として便利に使われているのが現状なのである。

最後に、小言幸兵衛型の科学者に対する私見を述べておきたい。その中にはさまざまな立場の科学者がいるので一口では言いづらいが、要約すればそのような科学者の意見は、「部分的に受け入れても全面的に信用しない」ことである。例えば、環境問題は存在しないと批判している人の意見にも聞くべきところはある。かれらの言うことは部分的には正しいのだ。しかし、環境問題に責任を感じなくてよいと安心させてくれるため支持されている側面も忘れてはならない。環境問題に人間が関係していることは間違いなく、それを免罪するかのような意見を一面的に受け取るのは危険なのである。かれらが指摘するまともな部分は受け入れつつ、消極主義に陥るのではない態度を堅持することだ。環境に影響しうる要因を考慮して、打つべき手を積極的に考える方が生産的であると言える。

より積極的に反体制を標榜して、学界主流の意見や世間に流布している意見を疑い、公然と反対している科学者にもお目にかかる。「その懐疑精神やよし」で私も共感を覚えることが多いが、反対のための反対となつていゝこともあり、全て賛成というわけではない。世間から理解されていないという被害者意識なのか、人より先を読んでいるという優越感からなのか、かれらは時に大言壮語したり、人を見下したりする態度を見せてしまう。そうなるのがつきりである。判断力が狂い、疑似科学のお先棒を担ぐ仕儀となつてしまうからだ。いかに反体制であろうと、やはり謙虚であることが科学者にとって必須条件なのである。

逆の場合もある。科学者ではないが、アメリカの副大統領であつたアル・ゴアは「不都合な真実」という映画と本で環境問題がセツパクしてゐることを訴えて大きな共感を得、ノーベル賞まで授与された。ところが、ゴア自身は大邸宅に住んでいて、およそ環境に優しい生き方とは思えない暮らしぶりである。それでは口先だけの批判であつて生活に根付いていないから、素直に彼の言うことが信じられなくなる。とはいえ、環境問題に関するゴアの情報収集能力は素晴らしいから、その部分は受け入れねばならない。言つてゐることとしてゐることが食い違つてゐることは往々にあること<sup>⑦</sup>で、買うべきところは買うが、全面的に信用すべきではないということだろう。環境問題に常々警告を発しながら、自分は何もしてゐない科学者も同類である。環境派を標榜する科学者であれば、自分の生き様を手本にできるくらい実践してゐなければならぬ。私たちが、表向きの姿だけでなく、その実像を見るのが大事なのだ。

問一 ㉑㉒のカタカナを漢字に書き改め、漢字には読みがなをつけよ。

問二 傍線部㉓㉔をそれぞれ、同じ意味の別の表現に置き換えよ。

問三 傍線部㉕の「常に現役」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- ① テレビ番組や政府の審議会などの場で専門家として意見を述べる立場にしていること。
- ② 研究を極めるにつれて自分の無知さを知り、謙虚な姿勢で真実を追及していること。
- ③ これまでの研究経験や培った勘を活かして専門的な意見を述べる立場にしていること。
- ④ 科学者として独自の意見を持ち、自分の意見が最善であると主張し続けていること。

問四 傍線部㉖とはどういう人物か。本文に即して四十五字以内で説明せよ。

問五 傍線部㉗を具体的に述べている箇所を本文中から十五字以内で抜き出して書け。

問六 傍線部㉘はここではどういう態度のことか。簡潔に説明せよ。

問七 傍線部㉙はここではどういうことか。簡潔に説明せよ。

問八 傍線部㉚について本文中で同じ意味を表わす語句を五字で抜き出して書け。

問九 傍線部㉛とはどういうことか。簡潔に説明せよ。

## 【二】

次の文章を読み、後の問いに答えよ。

大学の煉瓦塀れんがべいに沿うて歩き煉瓦塀を外れて高等学校の前にさしかかると、白く立ち並んだ棒で囲われた校庭の黒い葉桜の下の仄暗い叢ほのくらさくまわらから虫の音が聞えて来る。虫の声に少し足を緩め耳を傾け、更に虫の声を惜しんで高等学校の庭から離れないため道を右に折れ、そして左に折れると、立棒の代りからたちの植わった土手が始まる。左に折れた角で、はて！ と輝いた眼めを前へ投げて私は小走りに急いだ。

前方の土手の裾すそに、可愛らしい五色の提燈ちようちんの灯ひの一団が寂しい田舎の稲荷祭いなりまつりのように揺れていたからである。近づかなくとも、子供達が土手の叢の虫を捕とっているのだと分る。提燈の灯は二十ばかり。そして提燈の一つ一つが紅桃色藍緑紫黄などの灯をともしているばかりでなく、一つ⑦の灯が五色の光をともしているのである。店で買ったらしい小さい紅提燈もある。けれども多くは子供等がシアン⑧を凝らして自分の手で作った可愛らしい四角な提燈である。この寂しい土手に二十人の子供が集まり美しい灯が揺れるまでには一つの童話がなければならぬ。

街の子供の一人がある夜この土手で鳴く虫を聞いた。次の夜は紅行燈を買って鳴く虫の居所を捜した。その次の夜は子供が二人になった。新しい子供は提燈が買えなかった。小さい紙箱の表と裏を切り抜いて紙を貼り底に蠟燭ろうそくを立て頭に紐ひもをつけた。子供が五人になり七人になった。紙箱を切り抜いて明り取りに貼る紙を色どり絵を描くことを覚えた。そして智慧ちえのある小さい美術家達は紙箱のところどころを円く三角に菱形ひしがたに切り抜き、小さい明り窓を一つずつ違った色に彩り、更に円や菱形や紅や緑をつかつて一つの纏まとまった装飾模様とした。紅提燈を買った子供も店⑨で買える趣きのない提燈を棄て、自作の提燈を持つ子供も単純なイシヨウの提燈を棄て、昨夜携もえた光の模様は翌日もう不満足で、昼は紙箱と紙と絵筆と鋏はさみと小刀と糊のりを前に日々新しい提燈を一心に削り、我が提燈よ！ 最も珍らしく美しかれ！ と夜の虫取りに出かけるのであろう。そうして私の目の前の二十人の子供と美しい提燈とになったのではあるまいか。

私は目を見張④って佇たんだ。四角な提燈は古代模様風に切り抜かれ、花模様はながたに切り抜かれているばかりでなく、たとえば「ヨシヒコ」とか「アヤ子」とか製作者の名が片仮名で刻み抜かれているのである。紅提燈に絵を描いたのと違って、厚紙の箱を切り抜いてそれに紙を貼ったのであるから、その模様だけが窓になって模様通りの色と形で蠟燭の光が洩もれているのである。そうした二十の灯が叢に射し照らされて子供達は悉く一心に虫の声を頼りに土手にしゃがんでいるのである。

「誰かバツタ欲しい者いないか。バツタ！」と、一人だけほかの子供から四五間離れたところで草を覗のぞいていた男の子が伸び上ると突然言った。

「お呉れ！ お呉れ！」

六七人が直ぐ駆け寄って虫を見つけた子供の背に重なるようにしながら叢を覗き込んだ。そして駆けつけた子供達が差し出す手を払い退け虫のいる

叢を守るような姿で両手を拡げて突っ立った男の子は右手の提燈を振ると、再び四五間彼方の子供達に叫んだ。

「誰かバツタ欲しい者いないか。バツタ！」

「おくれ！ おくれ！」

四五人走って来た。全くバツタでも貴いほどに虫は捕れないらしい。男の子は三度び呼んだ。

「バツタ欲しい者いないか。」

二三人近寄った。

「頂戴な。頂戴。」

新しく近寄った女の子が虫を見つけた男の子のうしろで言った。男の子は軽く振り返ると素直に身を屈めて提燈を左に持ち代え右手を草の間に入れた。

「バツタだよ。」

「いいから頂戴！」

男の子は直ぐ立ち上ると握った拳を、それ！ という風に女の子の前に突き出した。女の子は左の手に提げていた提燈の紐を手首に懸け両手で男の子の拳を包んだ。男の子が静かに拳を開く。虫は女の子の親指と人差指の間に移っている。

「あら！ 鈴虫だわ。バツタじゃなくてよ。」と、女の子は褐色の小さい虫を見て眼を輝かせた。

「鈴虫だ！ 鈴虫だ！」

子供達は羨ましそうな声を合わせた。

「鈴虫よ。鈴虫よ。」

女の子は明るい智慧の眼をちらと虫をくれた男の子に注いでから腰につるしている小さい虫籠を外してその中に虫を放した。

「鈴虫よ。」

「ああ、鈴虫だよ。」と、鈴虫を捕えた男の子は吹き、虫籠を顔の真近に掲げて眺め入っている女の子に自分の五色の美しい提燈を掲げて明りを与えてやりながらちらちらと女の子の顔を見た。

「そうか！ と私は男の子がちょっと憎くなると共に、初めてこの時男の子のさつきからの所作が読めた我が愚しさを嘆いたのである。更に、あつ！ と私は驚いた。見給え！ 女の子の胸を、これは虫をやった男の子も虫をもらった女の子も二人を眺めている子供達も気がつかないことである。

けれども、女の子の胸の上に映っている緑色の微かな光は「不二夫」とはつきり読めるではないか。女の子が持ち上げた虫籠の横に掲げた男の子の

提燈の明り模様は、提燈が女の子の白いユカタに真近なため「不二夫」と男の子の名を切り抜いた所へ緑の色を貼った形と色そのままに女の子の胸に映っているのである。女の子の提燈はと見ると、左の首に懸けたままたらりと垂れているので「不二夫」ほど明らかではないが、男の子の腰のあたり揺れている紅い光を読もうなら「キヨ子」と読める。この緑と紅の光の戯れを——戯れであろうか——不二夫もキヨ子も知らない。

そして、不二夫は鈴虫をやったことを、キヨ子は鈴虫をもらったことを、いつまでも覚えていようとも、不二夫は自分の名が緑の光でキヨ子の胸に書かれキヨ子の名が紅い光で自分の腰に書かれ、キヨ子は自分の胸に緑の光で不二夫の名が誌しるされ不二夫の腰に自分の名が紅い光で誌されたことを、夢にも知らねば思い出しも出来ないであろう。

——川端康成『バツタと鈴虫』より——

問一 傍線部③④⑤の漢字の読みがなを記せ。

問二 カタカナを漢字に書き改めたときに傍線部①②③④⑤と同じ漢字を含むものとして、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、番号で答えよ。

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| ① | ① | ① | ① | ① |
| ② | ② | ② | ② | ② |
| ③ | ③ | ③ | ③ | ③ |
| ④ | ④ | ④ | ④ | ④ |
| ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ |

問三 傍線部⑥と傍線部⑦の本文中での意味をそれぞれ簡潔に説明せよ。

問四 傍線部⑧の理由を本文の内容に即して簡潔に説明せよ。

問五 傍線部⑨の理由を本文の内容に即して簡潔に説明せよ。

問六 傍線部⑩の「男の子」の名前を書け。

問七 傍線部⑪について、「私」は「男の子」のどういう気持ちに気づいて「そうか!」と思ったのか。簡潔に説明せよ。

B 国

問八 傍線部㊦について、「さっきからの所作」の内容を四十字以内でまとめて述べよ。

問九 傍線部㊧について、「私」はなぜ「戯れ」と表現したのか。本文の内容を踏まえてあなたの解釈を三十字以内で述べよ。